

=====

本メールマガジン[NEE Mail Magazine]は、経済教育ネットワークより会員の皆様  
にお送りしております。

=====



◆ NEE Mail Magazine 133号 ◆

-----2020-2-3◆◇

「逃げる」2月、如月です。

今年は何年。4年に一度の誕生日の先生や生徒もいるかもしれません。高校も大学も受験シーズンで、先生方も生徒も気ぜわしい日々が続きますが、授業では探究活動の準備など、これまでの学習の成果を生かす仕掛けを仕込む時期でもあります。そんな今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

---

【今月の内容】

【1】最新活動報告

20年1月の活動やニュースを報告します。

【2】定例部会のご案内・情報紹介

部会の案内、関連団体の活動、ネットワークに関連する情報などを紹介します。

【3】授業のヒント「テスト問題を生徒に作らせてみよう」

---

【イベントの案内】「先生のための経済教室 in 札幌」を開催します

今回の経済教室は、金融と地域経済をテーマとして、「データや資料を読み解き、読み解いた結果を使って考える」新しい教育にむけての授業改善に役立つ情報と実践報告・教材紹介を行ないます。

日時：2020年3月21日(土)13時00分～17時00分

場所：キャリアバンク職業訓練協会教室

札幌市中央区北5条西5丁目7番地 Sapporo55ビル(5階)

プログラムの詳細と、申し込み方法は以下をご覧ください。

<http://www.econedu.net/announcement/keizaikyousitu/2020%20keizaikyoushitu/20200321%20Sapporo.pdf>

---

【1】最新活動報告

■「先生のための経済教室」(沖縄)を開催しました。

日時：2020年1月18日(土)13時00分～17時00分

場所：沖縄県立図書館ビジネスルーム

宮崎三喜男先生(都立国際高等学校)、河原和之先生(立命館大学他)、篠原総一代表の講演が行なわれました。

内容の詳細はまとめ次第 HP に掲載いたします。

■東京部会 (No.114) を開催しました。

日時: 2020 年 1 月 30 日 (木) 19 時 00 分 ~ 21 時 00 分

場所: 慶應義塾大学三田キャンパス研究室棟 446 会議室

内容の概略: 参加者 13 名

(1) 冬休み経済教室の総括が行なわれました。

・94 名の参加者があったこと、進行役 (杉田孝之先生)、登壇者 (杉浦光紀先生) のコメント、などがあり、今後も入試問題と授業改善のテーマを継続して探究

してゆくことが確認されました。

・あわせて、この種の教室での資料に関する著作権の扱いに関する説明が篠原代表からありました。

(2) 中原啓太郎先生 (中央大学附属横浜中学校・高等学校) から、中学 3 年公民での「2020 新年の新聞」の実践報告がありました。

・元旦の新聞 7 紙の一面記事と社説、広告を使った授業です。生徒に新聞への関心を持たせること、経済授業の総括と国際問題の授業への導入の位置づけの授業です。

・検討では、参加者から新聞を授業でどのように使っているかの紹介があり、篠原代表が、新聞を使って何を教えるのか、原点から考えてみる必要があるというまとめがありました。

(3) 本年の夏休み経済教室の日程、会場が確認されました。

・8 月 6 日、7 日が大阪高校、中学対象で会場は大阪取引所ホール、8 月 20 日、21 日が東京高校と中学対象で会場は東証ホールで行います。

・今年はオリンピックイヤーで、東京の教室は高校、中学とも一日開催とすることが報告されました。

・内容に関しては、早めに検討して提示できるよう準備を進めることとなりました。

部会内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo114report.pdf>

■大阪部会 (No.67) を開催しました。

日時: 2020 年 2 月 1 日 (土) 18 時 00 分 ~ 20 時 00 分

場所: 同志社大学 大阪サテライト

内容の詳細はまとめ次第 HP に掲載いたします。

---

【 2 】定例部会のご案内・情報紹介

---

<定例部会のお知らせです。(開催順)>

■東京部会を開催します。

日時:2020年3月13日(金) 19時00分~21時00分

場所:慶應義塾大学三田キャンパス研究室棟 446 会議室

内容の概略、申し込み方法は以下をご覧ください。

■大阪部会(No.68)を開催します

日時:2020年4月11日(土) 18時00分~20時00分

場所:同志社大学 大阪サテライト(予定)

内容の概略、申し込み方法は以下をご覧ください。

■HP が新しくなります

2月12日に、経済教育ネットワーク HP がリニューアルされます。

これまでネットワークの活動のなかで蓄積してきた、報告、授業案などを利用、検索しやすくなっています。

新しいHPの登場をご確認ください。

<関連団体の情報>

■ミニ「ネタ研」が開催されます。

日時:2020年3月29日(日)13時00分~17時00分

場所:大阪高津ガーデン

---

### 【 3 】授業のヒント「テスト問題を生徒に作らせてみよう」

---

試験は、出題者である先生が生徒に対して、こんな知識が分かっているかとか、こんなテーマに関してどう考えているかを確かめるための方法です。そこでは、出題者と解答者がある意味上下関係から成り立っているのが普通です。今回のヒントは、それを逆転させてみたらという話です。

#### (1)生徒がテスト問題の原型をつくった

テスト問題に関して、昨年末の「冬休み経済教室」で、杉浦光紀先生の発言のなかで、興味深い部分がありました。定期考査に出題した論述問題が、生徒が自習時間の課題で作ったものを母体として作成したということです。

生徒の立場からすれば、テスト問題は、たとえば言えば、ご主人様から家来にご下問が下るという関係の、受け身の作業と言ってもよいでしょう。

それを自分たちが作ることができるということは、家来から主人になるという逆転現象です。主体的な学習という言葉がスローガンになって授業案や実践報告には登場しますが、生徒が本当に主体的になるというのは、よほどのことでなければいけないというのは先生方なら実感していることだろうと思います。

それが生徒に試験問題を作成させることで、比較的簡単に実現出来る可能性があることが、杉浦報告からわかります。

#### (2) まずは四択問題から

生徒にテスト問題を作成させる場合は、まずは四択問題からがよいでしょう。共通テストの試行問題で言えば、アダムスミスに関して正しいものはどれかという「現代社会」の問題がありました。こんなかたちで、生徒に四択の選択肢を作らせてみたらどうでしょう。

この作業はグループ学習に適しています。

四人一組だと、正答の文章を四人が一つずつ作る。それを持ち寄って、みんなで吟味します。次は誤答づくりです。どこをどう間違えるようにすればよいか、誤答作成の過程で、出題のコツのようなものをつかむことができるでしょう。これは主体的学習でもあり、テスト対策にもなります。

#### (3) 次は読み取り問題

四択問題作成の延長でできるのはデータやグラフの読み取り問題です。

これはすでに出題された入試問題などからもってきてよいし、授業で使ったデータを使っても良いでしょう。

四択問題と同じように、グループでこのデータから読み取れるものを一人一つ出し合い、それを問いの形にしてゆけば、いいわけです。

今年のセンター試験の「現代社会」で言えば、大学入学者数の関係学科別男女のグラフがあります。試験問題では、グラフから何が読めるかの選択問題でしたが、ここから日本の大学教育、さらにはこのような実態をどう考えるか、修正の必要はあるのか、修正するなら何が必要かなどの「問い」を立てることができたら、十分な学習課題を自分たちでたてたことになります。

#### (4) もっとひろげると

四択、読み取りの次は論述問題です。場合によってはこちらの方が作るのはいやしいかも知れません。

使うのは高校生だったらセンター試験、もしくは共通テストの試行問題のリード文になります。場合によっては教科書の本文を使っても良いかもしれません。

一番簡単なのは、まとまったリード文を読ませて、ここから100字とか200字の論述問題を作成させることです。問題作成のためには、リード文の主題が何であるか、そこからどんな「問い」が出てくるかを考えなければいけません。まとまった文章の読解力、分析力が求められます。

もっと応用だと、リード文をもとにした、対話文をつくらせて、そこから「問い」を作るという作業を行なわせても良いでしょう。これには相当の学力が求められるでしょうが、私たちが定期考査などで行なっている作問のプロセスを生徒に行なわせる、もしくは一緒に考えてみるのも主体的な授業づくりの道になるでしょう。

定期考査直前にこの作業を行なわせて、そこから何題か出題するよと予告しておく  
と、生徒の取組みに対するインセンティブが格段に上がるでしょう。でも、こんな  
人参を目の前にぶらさげるのは、やりすぎかな。(新井)

---

【 4 】編集後記(みみずのたはこと)

最後のセンター試験の公民、解いてみました。結論。工夫がたりない。来年からの  
共通試験論議で消耗しているのか、ほとんどが知識問題で、過去問の類似問題も  
ちらほら。30年近く続けると制度疲労を起こしているのかもしれない。「そん  
う君はどうなんだ」という内なる声も聞こえたりして、ちょっと複雑な心境にな  
りました。(新井)

---

=====  
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお  
手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.htm>

|

=====

◆◇

編集・発行 : 経済教育ネットワーク

----- (C) Network for Economic Education ◆◇